

福岡市民病院の概要



〈福岡市民病院〉

《目 次》

1. 市民病院の概要等について-----	1～5
2. 各診療科の状況	
(1) 内科-----	6～11
(2) 外科-----	12～15
(3) 神経内科（脳卒中センター）-----	16～18
(4) 脳神経外科（脳卒中センター）-----	19～20
(5) 循環器内科-----	21
(6) 整形外科-----	22～23
(6) 麻酔科-----	24～25
(7) ICU・救急部-----	26～28
(8) 放射線科-----	29～32
3. 災害被災地への派遣-----	33
4. 看護部等人材育成のための実習生の受け入れ-----	34

1. 市民病院の概要等について

(1) 病院概要

1) 開設年月日 平成元年5月1日

2) 規模
敷地面積 6,036.66 m²
建物延べ床面 14,452.58 m²
地上8階、地下1階

3) 基本理念

「心を尽くした最高の医療を通じて すべての人の尊厳を守ります」

4) 病院の種類及び性格

ア. 急性期病院

イ. 脳卒中センター（脳神経外科、神経内科）、循環器科、ICU（集中治療室）を設置し、地域に不足する高度救急医療を提供している。

ウ. 地域特性により患者が多い肝臓、腎臓の疾患に対し、専門的医療を提供している。特に「肝炎、肝硬変、肝癌」の治療に関しては、センター的役割を果たしており、また腎透析用の動静脈瘻作製（血管外科）例数は市内でも有数である。

エ. 当院の脊椎外科治療は常に九州のリーダーとして存在し続けており、消化器癌治療、糖尿病治療も指導的役割を果たしている。

5) 診療科目

内科、外科、神経内科、脳神経外科、整形外科、循環器内科
耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、麻酔科

6) 病床数 200床

7) 各種医業統計比率（20年度）

ア. 平均在院日数・・・15.6日 イ. 病床利用率・・・92.2%
ウ. 患者紹介率・・・68.6% エ. 患者逆紹介率・・・41.2%
オ. 平均診療単価
入院・・・46,217円/日 外来・・・15,228円/日

8) 職員定数 206人（うち医師35人、看護師124人）

(2) 病院機能強化等への取り組み

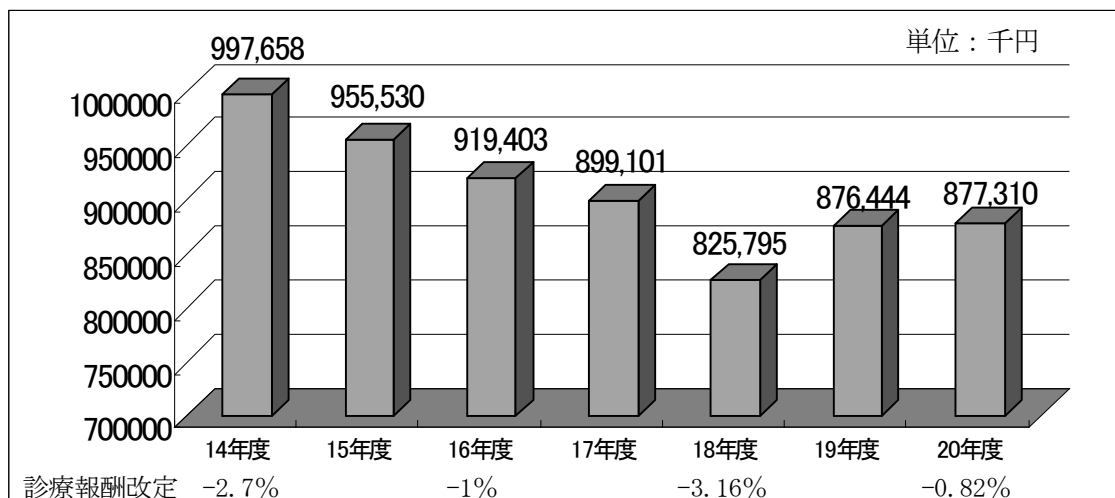
平成12年に現院長が就任して以来、「心を尽くした最高の医療を通じて、すべての人の尊厳を守ります」を基本理念として、

- ① 市民の医療ニーズへの対応 ② 患者サービスの向上
- ③ 医療事故防止の推進 ④ TQM運動を通じた職員の意識改革
- ⑤ 経営収支の改善 等に取り組んできた。

特に、平成14年12月には病院事業運営審議会から「市立病院の役割・あり方について」答申が出されたことから、この答申に沿って、次のように診療科の再編等を行い市民に求められる医療の提供に努めている。

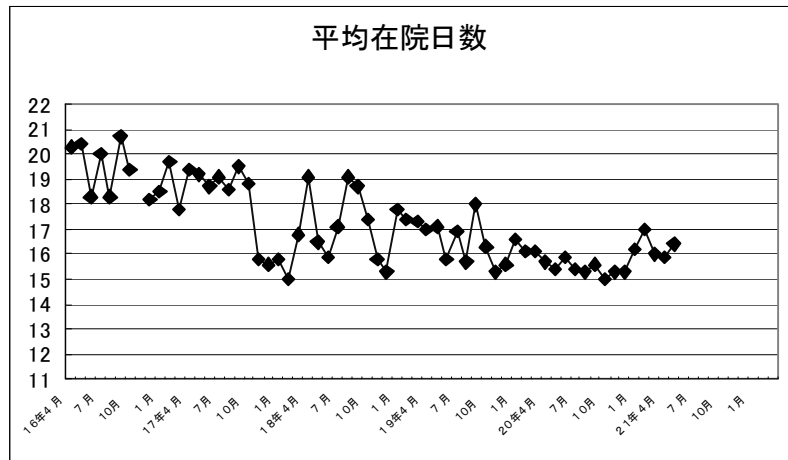
平成 15年	3月	救急告示病院として指定
15年	4月	診療科を見直し、神経内科、脳神経外科を新設し脳卒中センターを設置 地域医療連携室を設置し病・診連携体制を強化
16年	7月	消防局と連携し、救急救命士の気管挿管実習を開始
16年	11月	電子カルテ導入
17年	4月	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得
17年	8月	ICU(集中治療室)設置
17年	9月	管理型臨床研修病院に指定
17年	10月	消防局と連携し、救急ワークステーション事業開始
18年	4月	診療科見直しにより循環器科を設置し、高度救急医療体制を強化
18年	5月	診療報酬制度改正に対応するためDPC(診断群分類による包括評価)導入に参加 (全国自治体病院 992病院中37病院が導入)
19年	7月	臨床修練指定病院(外国人医師の研修病院)に指定
20年	11月	外来化学療法室設置
21年	2月	5階病棟を改造し、「脳卒中センター」を拡充

(3) 一般会計からの繰入金の推移

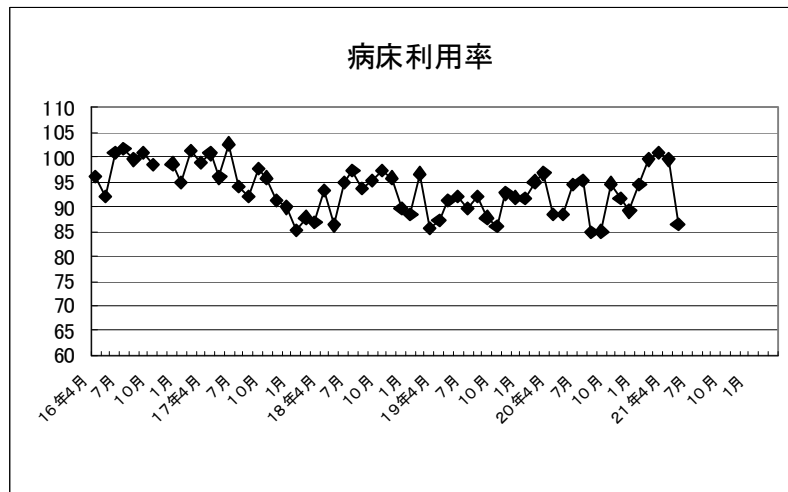


(4) 各種医業統計

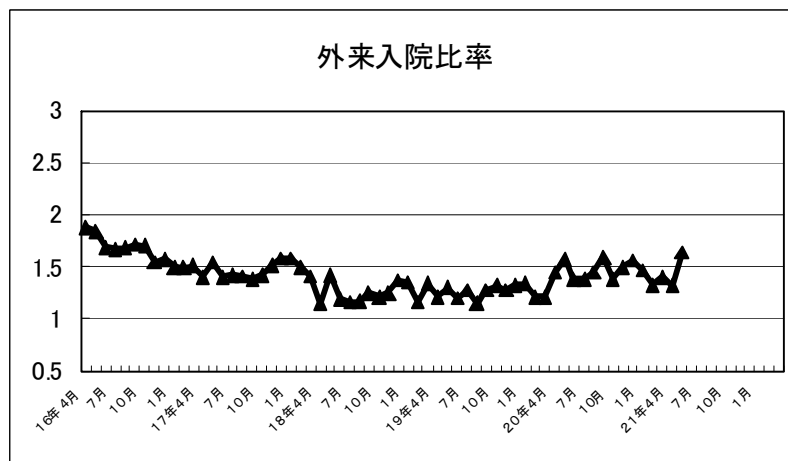
(単位：日)



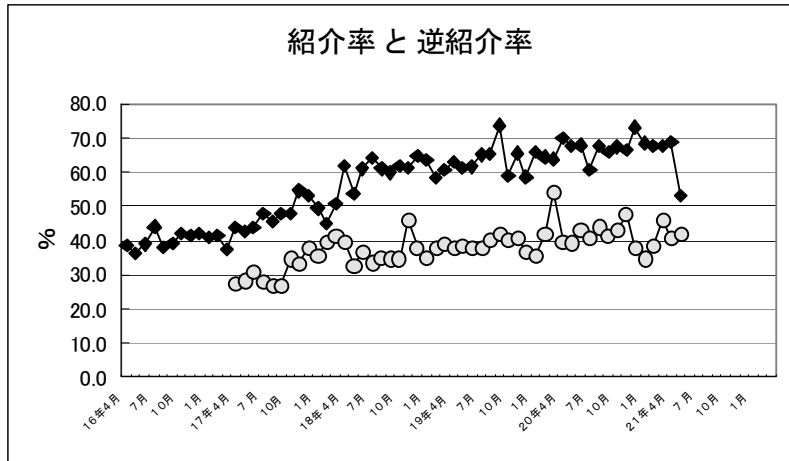
(単位：%)



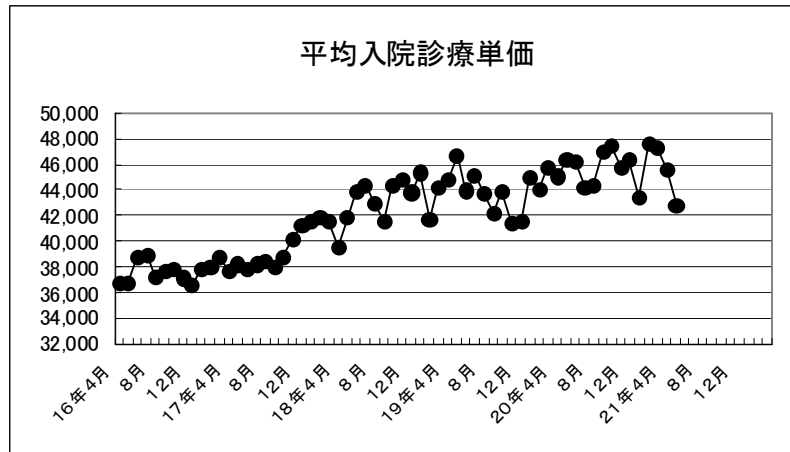
(単位：比)



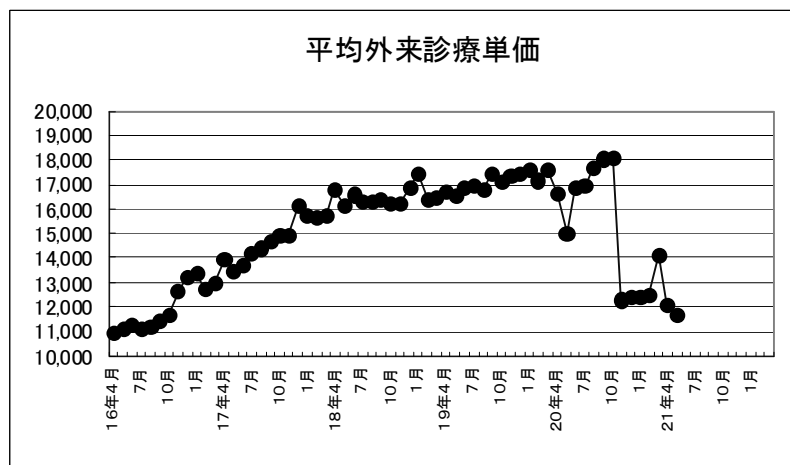
(単位：%)



(単位：円)



(単位：円)



注：20年11月値は院外処方開始に伴う影響

(5) 施設認定状況について

日本肝臓学会認定施設
日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内科学会教育関連病院認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設
日本神経学会専門医制度教育関連施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本医学放射線学会放射線科専門医修練協力機関
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設 B
日本 I V R 学会専門医修練施設
日本病態栄養学会認定栄養管理・N S T 実施施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
管理型臨床研修指定病院
日本医療機能評価機構認定病院
臨床修練指定病院（外国人医師臨床修練施設）

2. 各診療科の状況

(1) 内科

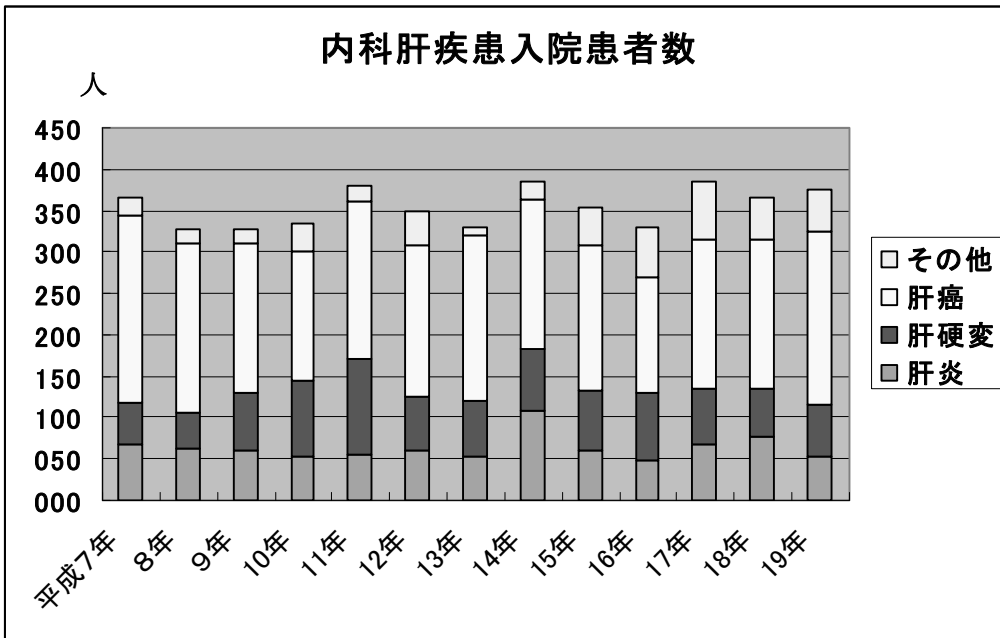
<概要>

市民病院内科は、肝・胆・膵、消化管、内分泌代謝・糖尿病を中心に診療を展開している。特に肝臓癌治療は外科と共同で診療に当たり、市内でも有数の症例数を誇っている。消化管は内視鏡治療が中心で、最近の内視鏡的粘膜剥離術の症例を伸ばしている。糖尿病は福岡市が疾病対策として脳卒中ともども力を入れている分野であるが、福岡市医師会成人病センターと共同で軽症糖尿病診療に対して先駆的な試みを行ってきた。

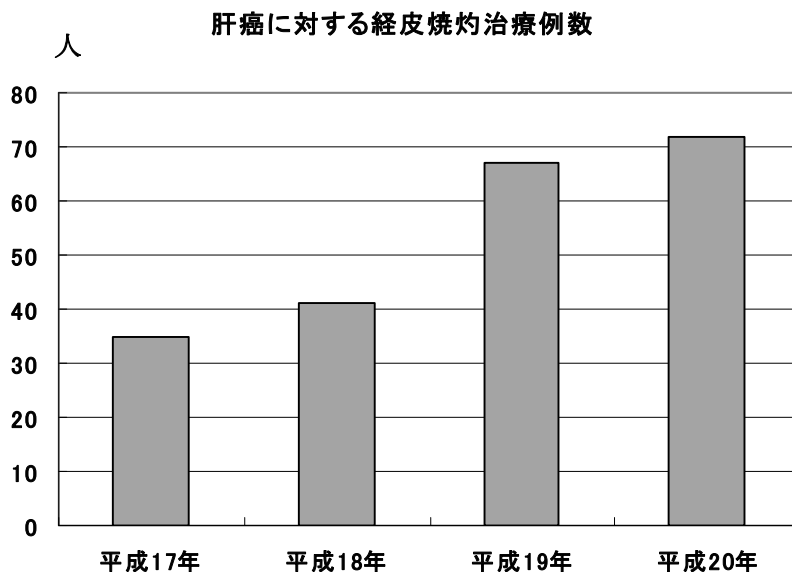
①肝臓

<特徴>

肝疾患に対しては、平成元年より特に肝臓癌の診療に力を入れてきた。当科における入院患者の35%が肝疾患で、そのうち50%が肝臓癌患者である。全員が慢性肝炎に対するインターフェロンや抗ウイルス剤治療、食道静脈瘤に対する内視鏡的結紮術や硬化療法、肝臓癌に対するマイクロ波やラジオ波を用いた焼灼療法、等全ての治療手技に精通して、市民に対して総合的な肝臓疾患治療を提供している。

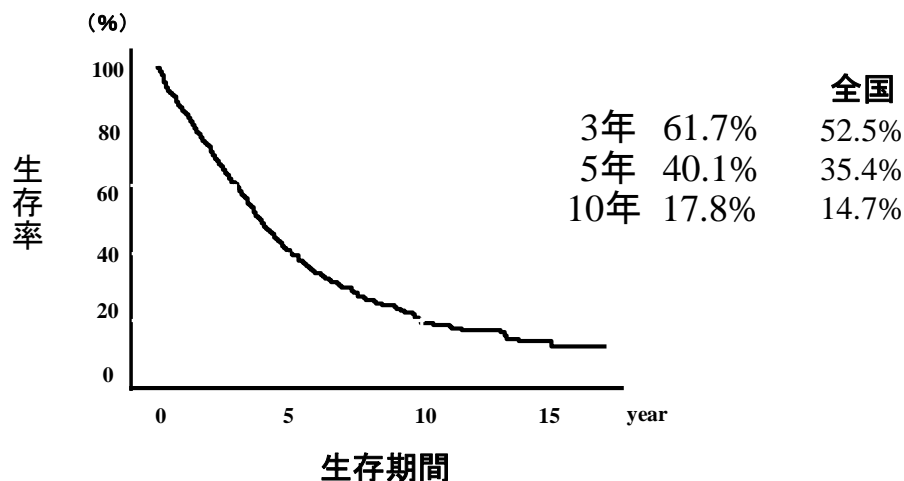


1. 肝臓癌の治療



肝癌の経皮的治療であるマイクロ波凝固、及びラジオ波凝固治療症例数は年々増加しており、これ以外にエタノール注入療法も併せて、市内でも有数の治療例数である。

当院におけるHCCの累積生存率(n=803)



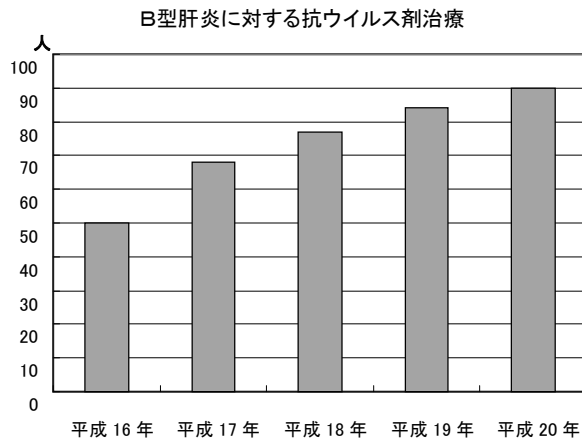
第17回全国原発性肝癌追跡調査報告（日本肝癌研究会）の全国集計と比較しても良好な治療成績を得ている。内科、外科、放射線科の連携による集学的治療が、極めて有効に機能している結果である。

施設別肝癌症例数 九州肝癌研究会集計より（平成7年～17年）

施設名	総数	施設名	総数
久留米大学消化器内科	1217	佐賀県立病院	387
飯塚病院	994	九州医療センター消化器科	346
長崎医療センター	710	南風病院	342
福岡赤十字病院	590	久留米大学医療センター	333
佐賀大学	554	福岡徳洲会病院	327
産業医科大学消化器・代謝内科	521	鹿児島大学消化器内科	316
九州医療センター外科	503	大分医療センター消化器科	287
◎ 福岡市民病院	489	長崎大学第一内科	276
宮崎大学内科学二	487	甘木朝倉医師会立朝倉病院	252
大分大学第一内科	468	宮崎医療センター病院	214
九州がんセンター	457	長崎大学第二内科	174
熊本大学消化器内科	442	西日本病院	125
九州大学第二外科	397	琉球大学	111

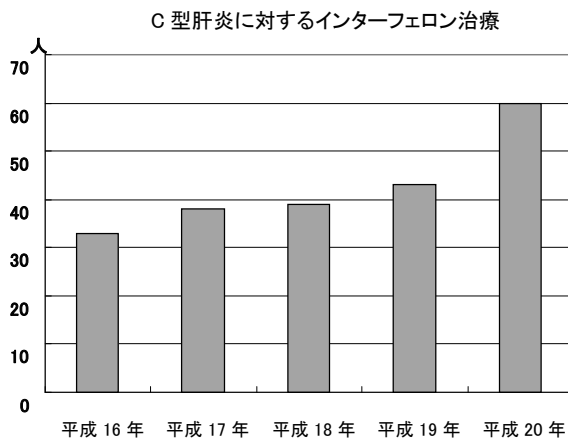
福岡市内でも有数の治療例数であり、現在においても福岡市民にとって重要な治療の場を提供している。

2、B型肝炎の治療



B型肝炎に対する抗ウイルス療法を行っている症例数は着実に増加している。

3、C型肝炎の治療



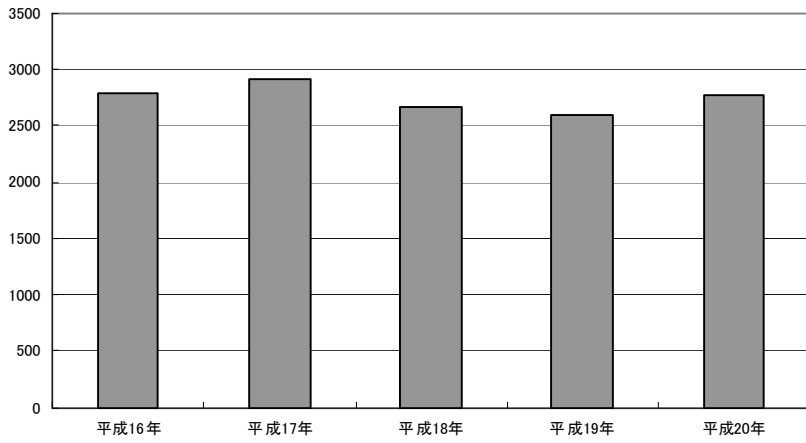
C型肝炎に対するインターフェロン導入症例数も着実に増加している。

②消化器

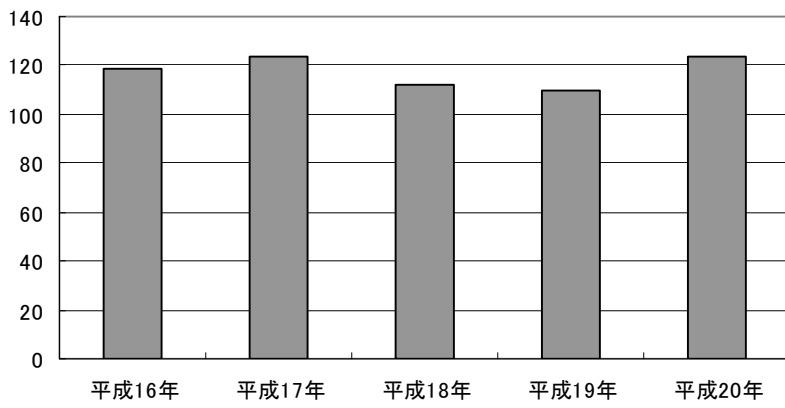
<特徴>

消化器内科では内視鏡診断と内視鏡的治療を中心に診療を展開している。内視鏡的粘膜切除術（EMR）の他に平成 18 年からは内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を開始して症例を増加している。過去 5 年間の内視鏡検査総数は約 2 7 0 0 件、超音波内視鏡検査は約 1 2 0 件、内視鏡的大腸ポリープ切除術は約 1 2 0 件、内視鏡的粘膜切除術は平成 1 8 年まで 6 件、内視鏡的粘膜下層剥離術は平成 1 9 年、2 0 年に 1 2 件実施した。

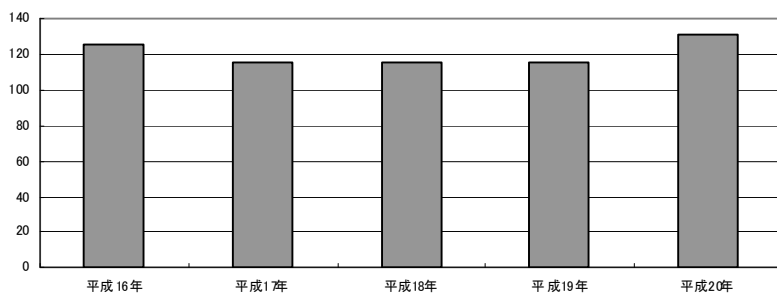
内視鏡総件数



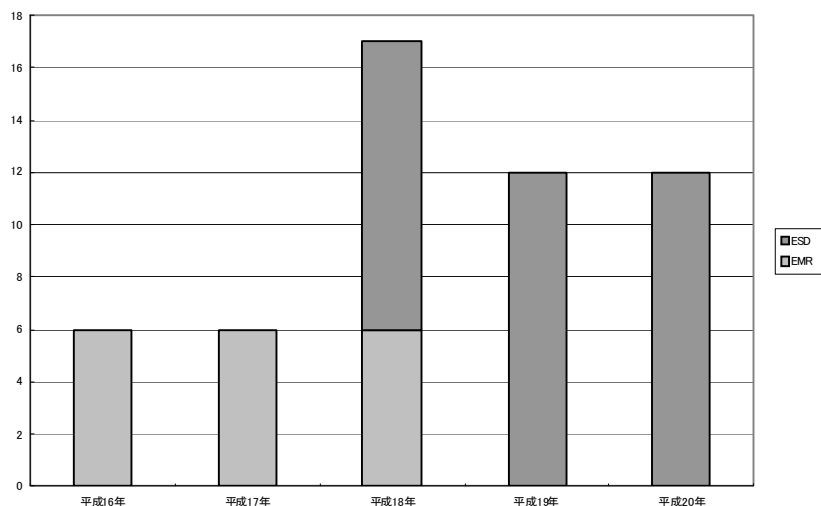
超音波内視鏡件数



内視鏡的大腸ポリープ切除術



内視鏡的胃粘膜切除術



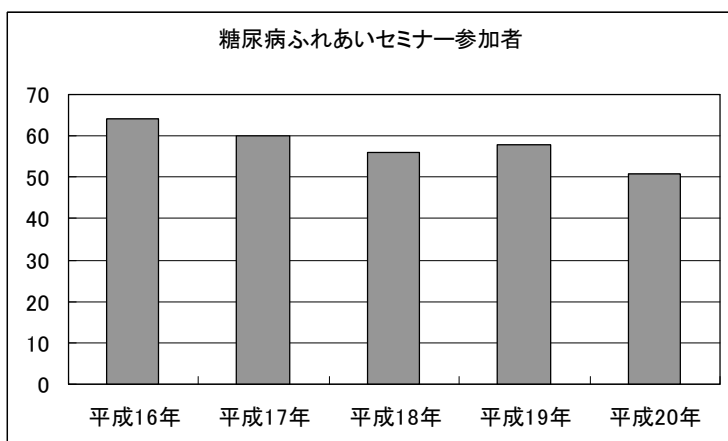
③内分泌代謝・糖尿病

<特徴>

平成20年11月より国民保険加入者を対象として特定検診を開始した。受診者のうち35%が積極的支援または動機付け支援の対象と判定され、当院で指導を行った。また、受診者の65%が受診勧奨に該当し、新規患者の掘り起こしにつながっている。今後、社会保険加入者についても検診を実施する予定である。

院外活動

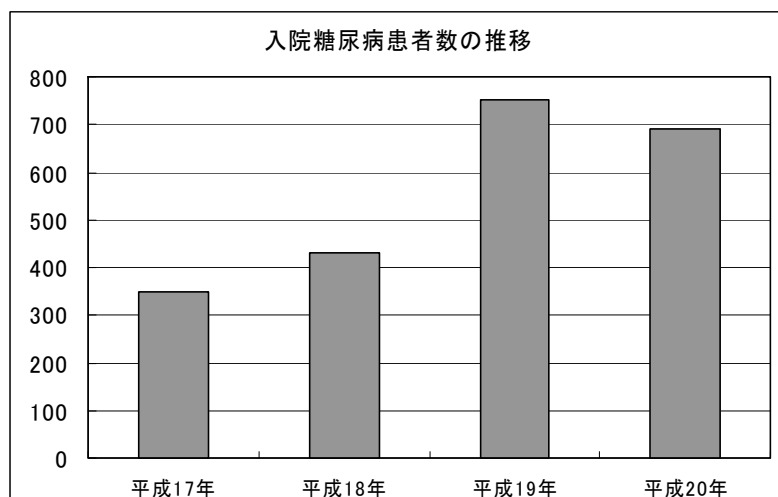
平成14年より毎年1回、一般市民を対象に糖尿病セミナーを開催し、糖尿病に関する啓蒙や健康増進活動を行っている。



診療実績

入院診療：DPC導入後の主病名あるいは副病名に糖尿病の診断のある入院患者数は下図の通りである。内科での教育入院や血糖コントロール入院だけでなく、糖尿病を合併した他科の患者が多数存在し、年々増加して

いることがわかる。このことは入院中に血糖コントロールを必要とする患者が多いことを示唆している。



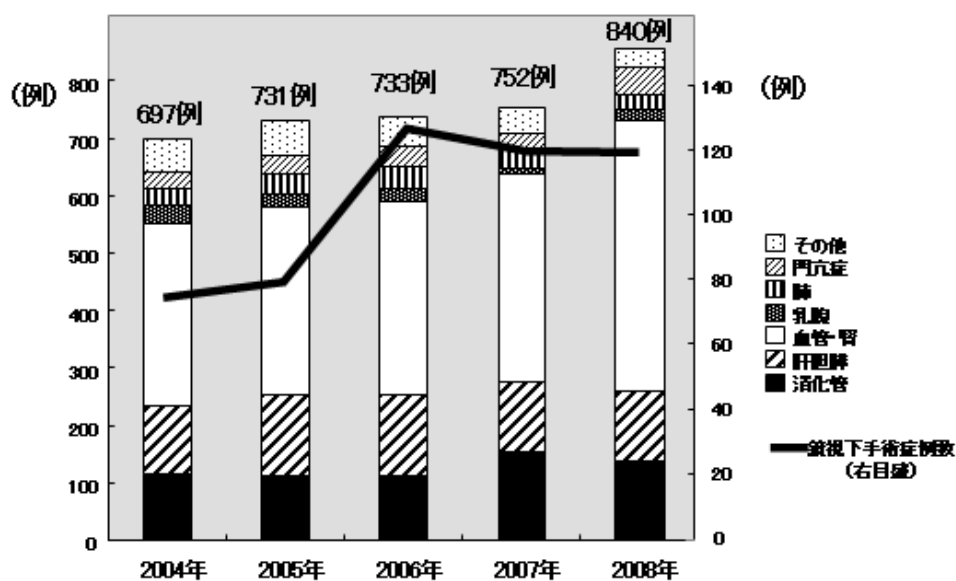
外来診療：平成20年度末現在、626名の糖尿病患者と114名の甲状腺疾患患者を診療している。入外来を通じてインスリンの積極的な導入を図っており、経口血糖降下薬55%、インスリン21%、経口薬とインスリンの併用8%と、この1年でインスリン治療患者は3%増加した。

(2) 外科

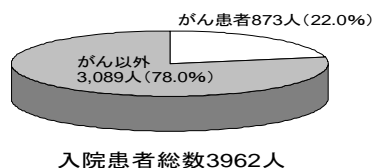
(概要)

診療内容は消化器外科（食道、胃、大腸、肝胆膵）、血管・腎不全外科、乳腺外科、呼吸器外科であり、総勢 9 名で外科と肝腎センターの診療に従事している。当院の入院患者に占めるがん患者の割合は 22.0%であり、その半数以上が外科において手術や化学療法が精力的に行われている。外科の年間手術で症例数は 800 例を越え、近年、とくに市民のニーズに応じて、胃、大腸、肺、門脈圧亢進症などの各分野において内視鏡外科手術の導入に力を注いでおり、過去 5 年間、順調に症例数が増加している。学術面では、日本外科学会、日本癌治療外科学会、日本消化器外科学界などの全国学会にシンポジウム、ワークショップなど精力的に成績発表している。

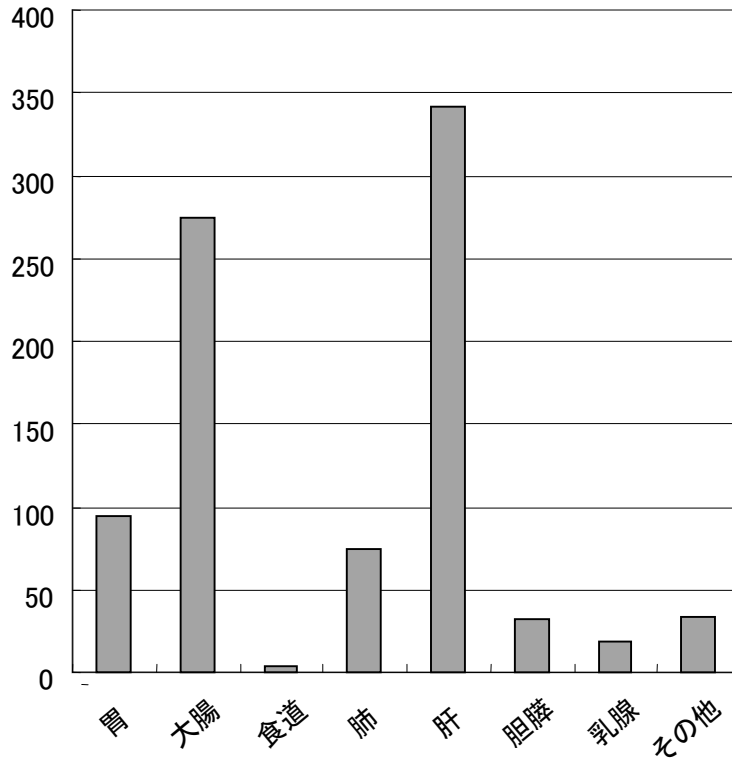
外科手術症例数の年次推移



平成20年度入院総数に占める癌患者の割合



当院に入院した癌患者臓器別内訳(平成20年度)

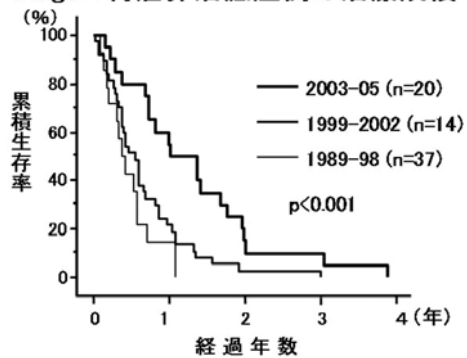


(特徴)

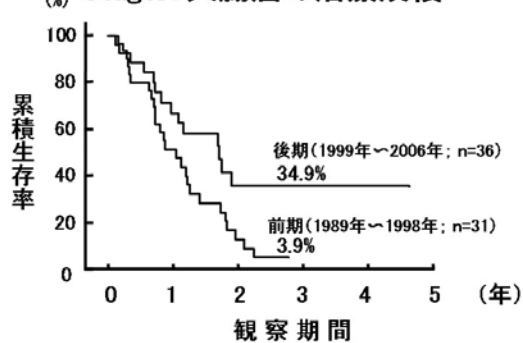
消化器外科

早期癌には腹腔鏡下手術や神経温存手術を積極的におこない、Poor-risk 症例に対しても腹腔鏡手術を導入して、根治性と安全性の高い治療を可能にした。進行癌には外科と化学療法による集学的治療を積極的におこない、生存期間の延長が得られている。

StageIV胃癌非治癒症例の治療成績

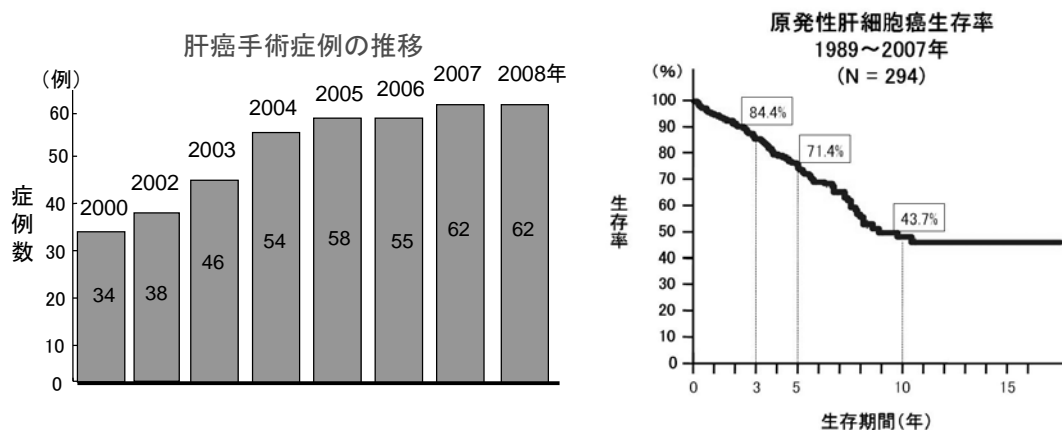


StageIV大腸癌の治療成績



肝胆膵外科

肝臓手術症例は 62 例で、県内トップクラスの症例数を誇り、肝胆膵外科学会の高難度手術修練施設 B にも認定され、今後肝胆膵外科医の育成にも力を注いでいる。



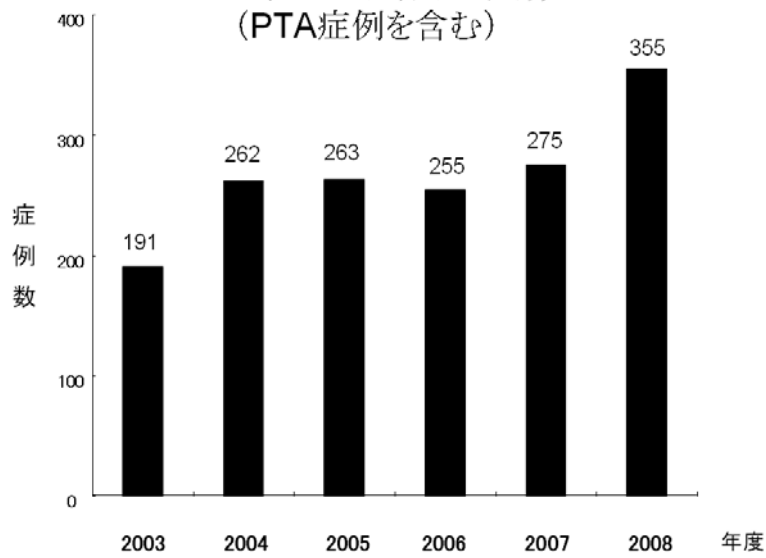
内視鏡外科

難度の高い胃、大腸、脾臓、ヘルニアに対する鏡視下手術例が着実に増加している。特に腹腔鏡下脾臓摘出術を C 型インターフェロン療法に対する低侵襲支援療法と位置づけ積極的に推進している。

血管外科・肝腎センター

胸頸部大血管を除くほとんどの末梢血管外科疾患の診療を行っている。昨年、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療の施設認定を取得した。動脈閉塞症例に対するカテーテル治療も行っており、低侵襲治療を心がけている。肝腎センターでは、血液透析治療とともに透析用バスキュラーアクセス(VA)トラブルに対する手術を精力的に行っている。新規シャント造設(自家血管・人工血管)から閉塞・感染に対する修復術、経皮的血管拡張術(PTA)など、年間 350 例を超える VA 手術を施行しており、迅速かつ適切な対応を心がけている。

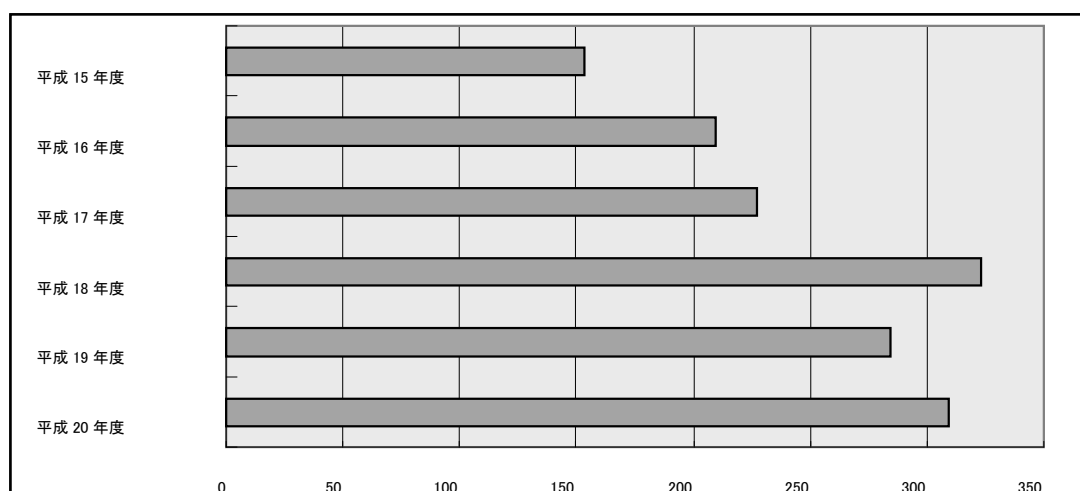
内シャント手術症例数 (PTA症例を含む)



(3) 神経内科（脳卒中センター）

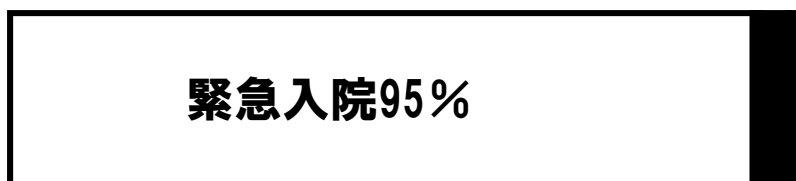
- 24時間365日 神経救急疾患全般に対応
95%が緊急入院、65%が救急搬送、46%が時間外入院
- 32名に r t - P A 治療（血栓溶解薬静注）を施行
（2009年5月31日現在）
- 血管内血栓溶解治療も放射線科と協力して施行
- 平成15年4月脳神経外科と同時に開設
- 2名の日本神経学会認定専門医、1名の日本脳卒中学会認定専門医による診療
- 脳神経外科、放射線科と緊密な連携（毎日合同回診）
- 日本神経学会准教育施設
- 日本脳卒中学会教育訓練認定施設

入院患者数の推移（当院への救急搬送に比例して増加）



平成20年度入院患者総数	309名
脳血管障害	154名
けいれん・てんかん	48名
失神・意識障害	14名
めまい症候群	9名
脳炎・髄膜炎	8名
パーキンソン症候群	8名
その他	68名
計	309名

入院種別割合



入院経路別割合

<input type="checkbox"/>	救急車65%	介助 22%	自力 10%
--------------------------	--------	-----------	-----------

入院時間別割合

<input type="checkbox"/>	時間内54%	時間外46%
--------------------------	--------	--------

神経内科は神経内科疾患のうち主に神経救急疾患の診療を行っている。脳卒中以外の神経救急疾患にも対応している。急性疾患以外には主に外来でパーキンソン病、脊髄小脳神経症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患の診療も行っている。

開設以来入院患者は順調に増加しており、平成20年度には309名の方が当科に入院した。内訳は脳血管障害154名（脳梗塞123名、一過性脳虚血発作6名、脳出血19名、その他6名）、てんかんまたはけいれん発作48名、筋萎縮性側索硬化症2名、髄膜炎または脳炎8名、末梢性めまい9名、その他88名（パーキンソン病、ギラン・バレー症候群など）である。

平成17年10月に認可された血栓溶解薬のrt-PAは平成20年度は12名に使用し良好な結果が得られている。急性期脳梗塞入院患者は123名であり、ほぼ10%の施行率であり、適応患者に対してはほぼ全例施行している。当院の特徴として当直放射線技師が全員MRI撮影可能である。そのためrt-PA対象となりそうな患者は全員頭部CTのほか頭部MRI、MRA施行して適応を判定している。平成21年5月31日までに累計して32名の脳梗塞患者にrt-PAを使用している。

入院患者の来院種別では当科の特徴でもある救急車による搬送が202人と65%を占めている。緊急入院、予定入院の別では緊急入院が95%とほとんどであり、また時間外入院が

143名（46％）と時間外の緊急入院が多いのも特徴である。

当院の特徴として、脳神経外科や放射線科などの他の診療科と協力して診療にあたっていることがあげられる。毎朝脳神経外科、放射線科とともにカンファレンスを行っており、回診も毎日脳神経外科と合同で行ない、最善の治療となるように検討を行っている。

(4) 脳神経外科（脳卒中センター）

<概要>

平成15年4月に脳神経外科が開設された。当初は2名で臨床活動を開始したが、手術例数の増加と手術難易度の高い症例が多いことから、平成19年4月より1名増員となり、現在3名で臨床活動を行なっている。

対応疾患としては脳血管障害、頭部外傷が主であるが、最近では脳腫瘍が増加傾向にある。脊椎脊髄疾患については当院整形外科と協力し、髄内病変や脊髄血管障害等、手術難易度の高い疾患は当科で対応している。

<特徴>

① 脳卒中センター 厳密な手術適応

脳卒中センターとして活動しており、神経内科や放射線科と毎日早朝カンファレンスや回診を行なっている。術後は手術ビデオを全例呈示し、複数の診療科で詳細にわたるディスカッションを行っている。これらによりオーバーサージェリーやアンダーサージェリーを防止し、手術適応を厳密に管理している。

② 救急対応

福岡地区メディカルコントロール事後検証医のほか、JATEC、JPTEC等を習得しており救急対応に優れている。緊急手術が必要な場合、救急車到着から最短10分台で手術室へ搬入している。

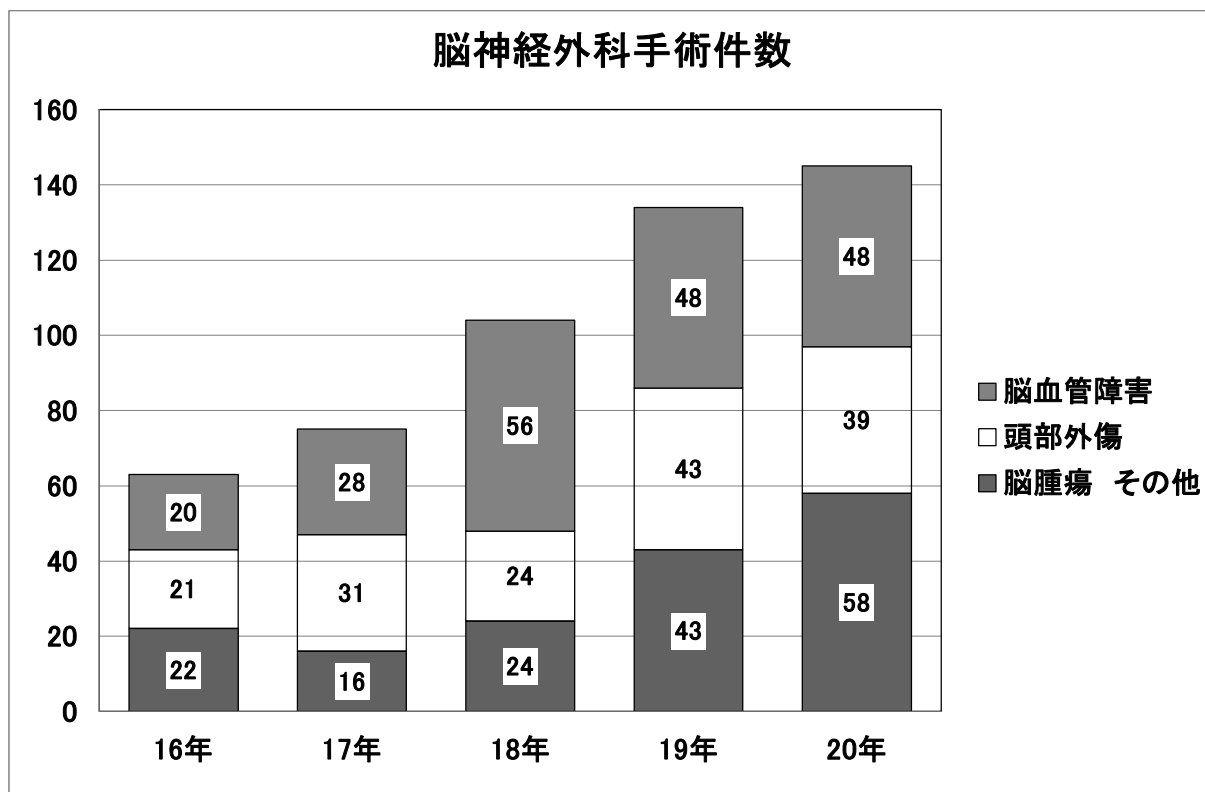
③ 安全で確実な手術

手術に際しては、運動誘発電位や体性感覚誘発電位等をはじめとした各種神経生理学的モニタリングをルーチンに施行している。さらに神経内視鏡やナビゲーションシステムを用いて機能的予後を重視した手術を行なっている。

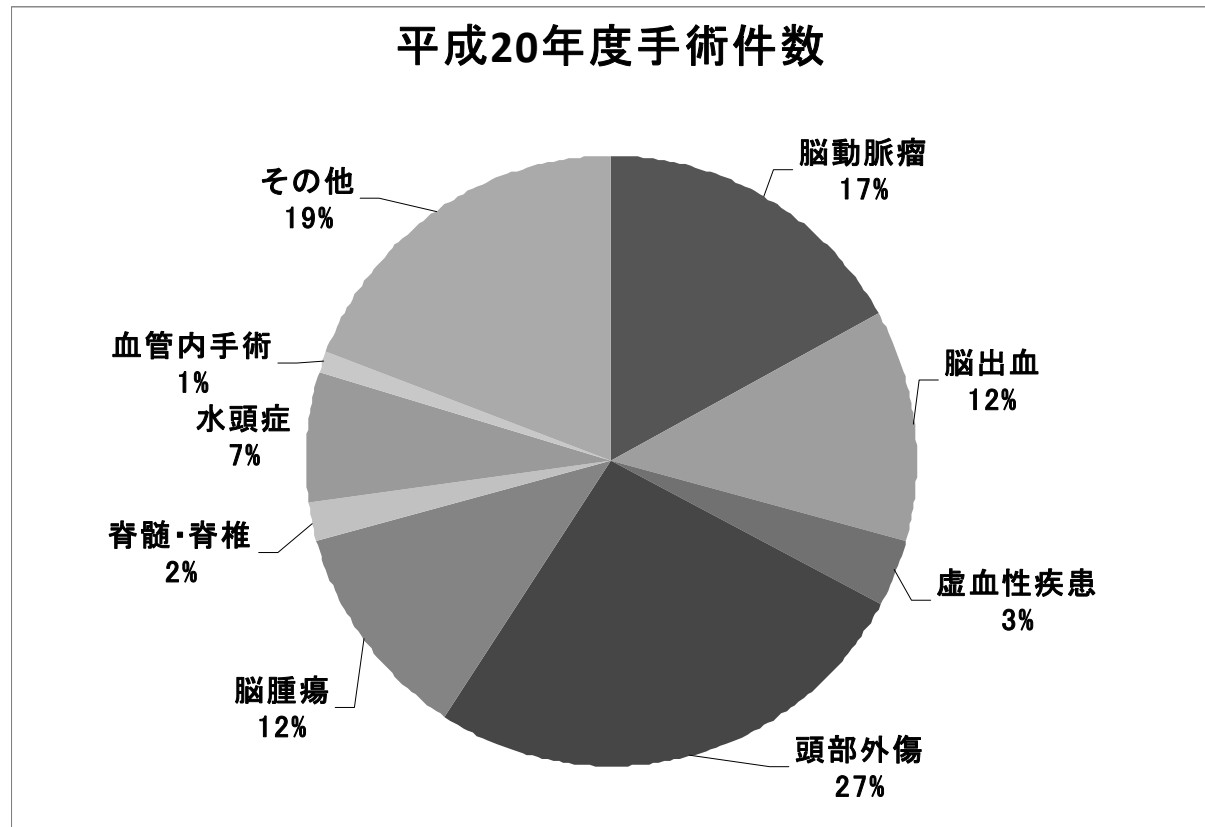
④ 地域医療連携の充実

近隣の回復期リハビリテーション病院と定期的な研究会を開催しており、毎回120名ほどの参加者がある。さらに福岡市医師会による脳血管障害地域医療連携パスのワーキンググループに参加し、地域医療連携を積極的に推進している。

< 診療実績 >



手術症例数は着実に増加している。その中でも頭部外傷や脳腫瘍などの手術件数が増加傾向にある。



平成 20 年度の手術内訳では、脳血管障害や頭部外傷などの救急疾患が多数を占めている。脳腫瘍のほか脊髄髄内腫瘍や脊髄空洞症など、手術難易度の高い疾患が増加傾向にある。

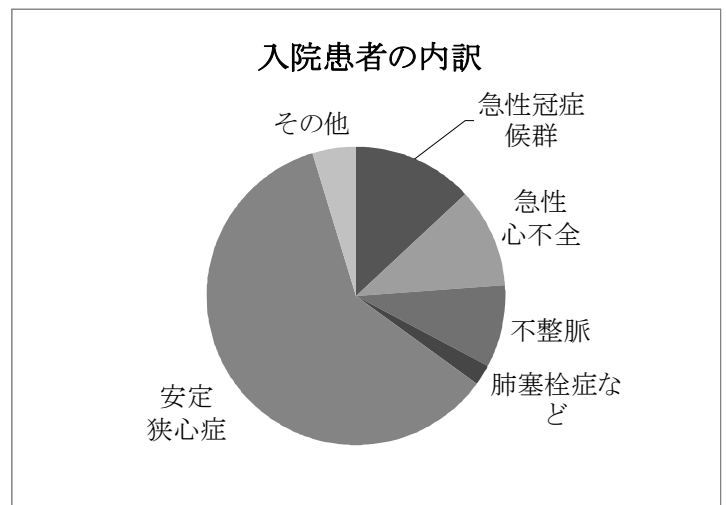
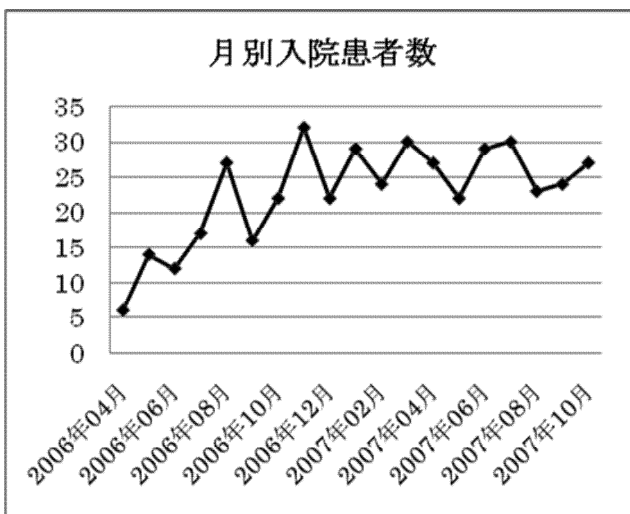
(5) 循環器内科

概要

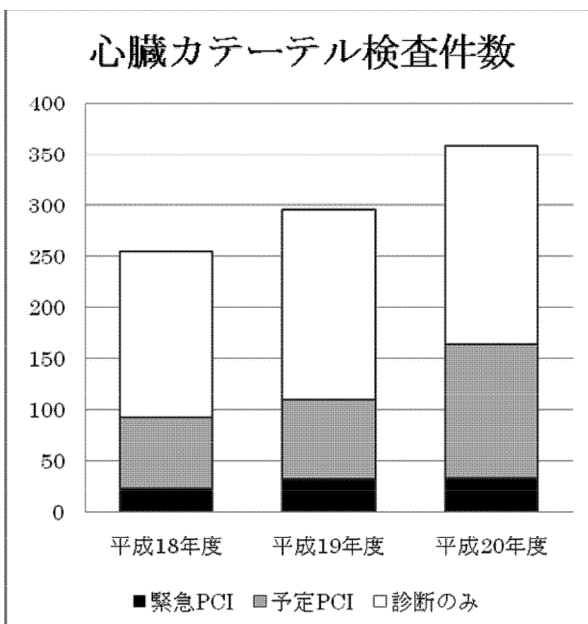
平成 18 年 4 月より、スタッフ 3 名にて診療開始。虚血性心疾患に対する冠動脈カテーテル治療（PCI）を中心に、急性冠症候群（急性心筋梗塞・不安定狭心症）、急性心不全、頻脈性および徐脈性不整脈、肺血栓塞栓症などの循環器救急患者を 24 時間体制で受け入れている。平成 19 年度より日本循環器学会循環器専門医研修関連施設として認定。平成 21 年 4 月よりレジデント 1 名が加わり、スタッフ 4 名となった。

診療実績

平成 18 年 4 月より診療開始。入院患者の約 3 分の 1 は緊急入院であり、原因疾患は、急性冠症候群、急性心不全、頻脈性および徐脈性不整脈の 3 つがほぼ 3 分の 1 ずつを占めていた。予定入院については、その多くが心臓カテーテル検査または治療を目的とした短期入院であった。



開設後 3 年間の心臓カテーテル検査件数の推移を下図に示す。PCI 件数は、平成 18 年度が 92 例、平成 19 年度が 109 例、平成 20 年度が 164 例と、周辺医療機関の認知度が高まるにつれて急速に増加しており、これは下表に示すように既に市内医療機関の上位 10 位以内に相当している。



不整脈については、永久ペースメーカー移植術または交換術を、平成 18 年に 5 例、平成 19 年に 12 例、平成 20 年に 11 例施行した。また、平成 20 年度からは、カテーテルアブレーション治療を開始している。

平成 21 年 4 月よりレジデント 1 名が加わり、更なる症例数の増加が期待される。

(6) 整形外科

<概要と実績>

近年の年間手術症例数ならびに平成20年度の手術内訳を示す(図1ならびに図2)。中でも特長といえるのは脊椎手術症例数の多さである。当院は「東の市民病院、西の九州医療センター」として、福岡市内における主要公的病院の脊椎手術症例数ランク1位ないし2位を常にキープしている(図3)。脊椎疾患は診断から手術、後療法に至るまで常に特殊な技能が要求される。整形外科だけでなく麻酔科や放射線科、更には全身合併症を管理する各科の医師、そして看護師、理学療法士といった脊椎疾患に携わるチームとしての医療体制が確立している。神経合併症と常に背中合わせの脊椎手術を安全に遂行できるのは、長年にわたって培われてきたこうした当院の背景があるからである。

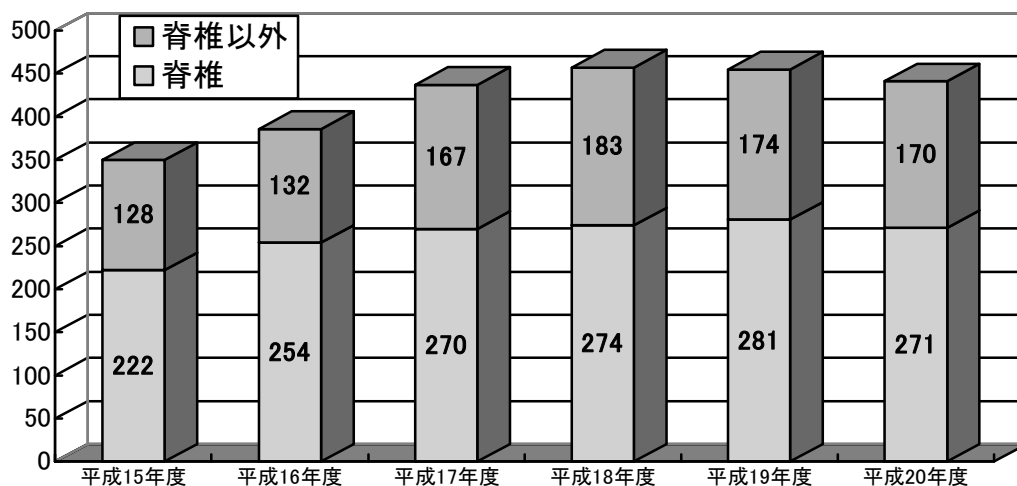


図1 整形外科手術症例

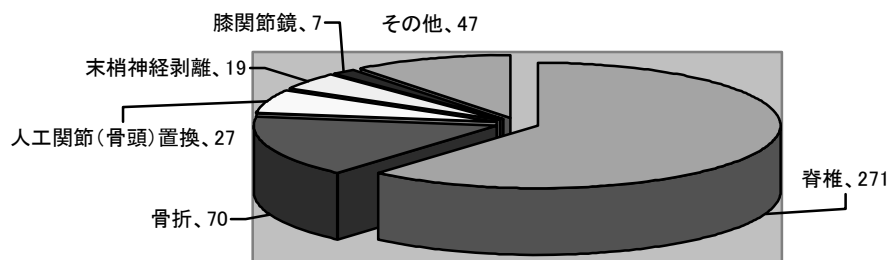
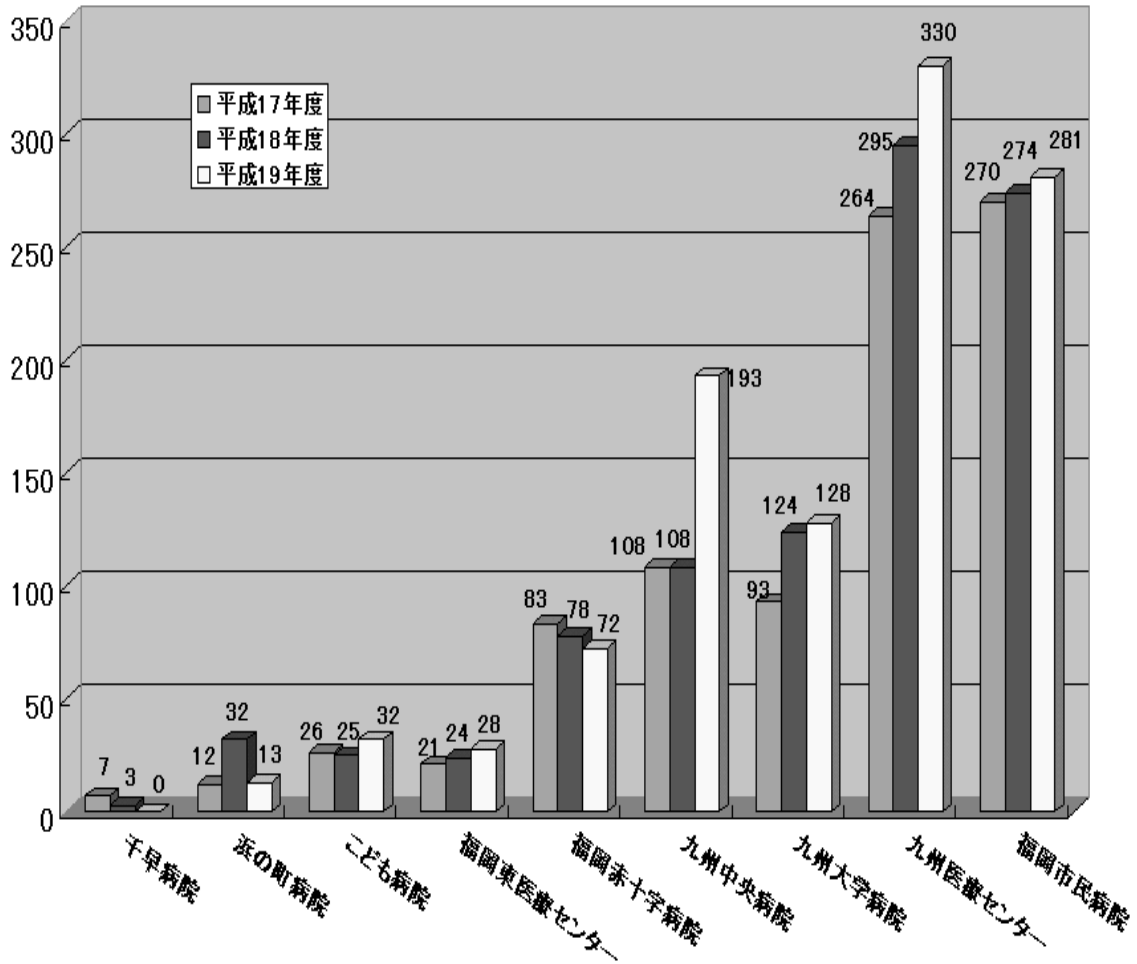
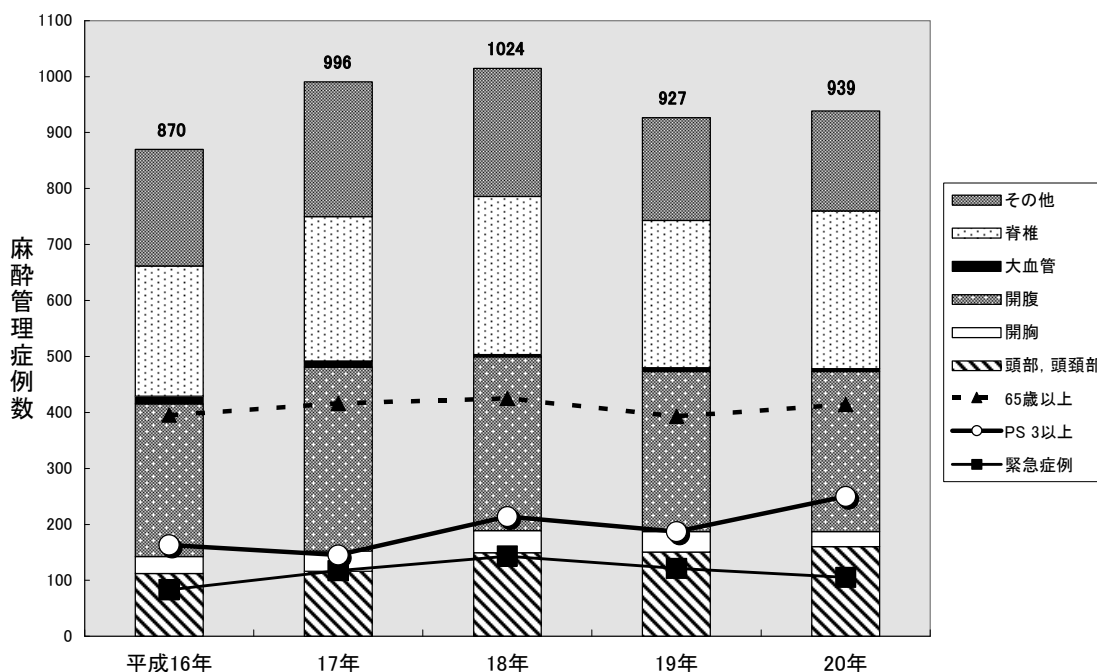


図2 平成20年度 整形外科手術の内訳

図3:福岡市内主要病院における脊椎手術症例数
 (九州大学整形外科学教室 同窓会誌より)



(7) 麻酔科



手術室に安全と安心を提供

上記のグラフは日本麻酔科学会集計による当院の麻酔科管理症例の内訳を示しています。手術件数は年ごとに増加し、高齢者（65歳以上）が多くなってきております。総手術件数としては血液透析患者の動静脈内シャント、白内障手術などの局所麻酔症例があと450例程加えた数となります。

当院は、平成15年に救急告示と脳卒中センター、17年には集中治療部そして18年には循環器科の増設を行いました。それに伴い、脳内出血症例、頭部外傷、多発骨折、急性腹症、腹部大動脈瘤破裂症例などに対する緊急手術（緊急症例）は確実に増加しています。特に脳神経外科症例では緊急症例が多く（75%）、脳内血腫除去のための開頭術のように来院後30分以内の手術室搬入など迅速な対応が要求されます。さらに循環器合併症例も増加して、術前合併症を示すASA-PS(米国麻酔学会術前状態分類)（PS3以上の症例）も高くなってきています。

外科の手術部位としては消化管はもとより肝臓切除や内視鏡を使った腹部手術も増加してきました(腹腔鏡下脾臓摘出術など)。これらの症例は肝硬変など肝機能に異常がある症例が多いことも特徴です。整形外科では脊椎手術が多く、腹臥位の管理というだけでなく、頸椎疾患に伴い後屈制限があることも多く特殊な気管挿管技術を駆使して管理しています。脊椎や大血管手術では低血圧麻酔や術中出血回収型自己血輸血を行うことにより日赤輸血を最小限に抑える工夫をしています。

また手術室は研修医など新人の出入りが多くリスクマネジメントが重要な部署です。

麻酔関連の偶発症はここ 10 年で大量出血は 2 例、術後脳梗塞 1 例ですが無事に退院されました。麻酔関連薬剤の誤投与などのインシデント調査でも手術室スタッフの積極的な関与により未然に防ぐことができています。

研修医、医療スタッフ、福岡市消防局救急隊への教育活動

① 院内 BLS,ALS 教育

救急告示してから、**研修医、院内の医療スタッフ全員**の基礎的な臨床能力を上げるための **BLS** 実習を毎年 **OSCE** の形で実施しておりますが、救急部とともにその中心的指導の役割を担っています。院内 **ALS** も 30 回を超え、業種間を越えて緊急時のチーム医療が円滑に動けるような体制作りにかかわっています。

② 救急救命士の挿管実習

心肺停止症例の蘇生に欠かせないのは「胸骨圧迫（心臓マッサージ）」と「確実な気道確保」です。平成 16 年 7 月より救急救命士の気管挿管認定制度が開始されました。当院では気管挿管は気道確保の一番確実な方法ですが、丁寧なマスク換気が基本と言う考え方で気道管理を指導しています。そして各診療科医師と 800 名を越す患者様のご協力により、平成 21 年 4 月までに福岡市消防局 22 名；粕屋南部消防本部 3 名の計 25 名の実習が終了いたしました。“気道管理”全般を学んだ修了者の活躍はめざましいものがあります。

福岡県気管挿管認定救命士の活動現状（H19 年）

地域名	実働救命士数	遭遇 CPA 件数	特定医療行為						合計
			気管挿管	コンピチューブ	LM	LT	経鼻エアウェイ	その他	
北九州地区	22	214	14	50	6	0	40	69	179
福岡地区	62	467	102	80	0	30	55	348	615
筑豊地区	11	58	3	4	0	3	30	66	106
筑後地区	21	159	5	34	0	14	78	178	309
合計	116	898	124	168	6	47	203	661	1209

③ 救急ワークステーション研修への積極的な参加

手術の見学だけではなく、緊急手術症例の麻酔導入や特殊挿管(意識下挿管;ファイバー挿管;分離肺換気等)、抜管など“意識と気道全般のケア”を見学・学習することにより、救急隊全員のレベルアップを図ることに主眼をおいています。

(8) ICU・救急部

<概要>

当院では主に脳神経および循環器領域の救急疾患を中心に、広範囲の救急疾患を対象としており、福岡市消防局をはじめとした福岡地区の各消防本部もこの特徴を把握していただいている。

<特徴>

① 迅速な救急対応

救急搬入から診断・根治的治療まで、適切かつ迅速に対応している。それぞれの診療科と密接に連携し、高度な救急医療体制をとっている。特に迅速性については3次救急施設に勝るとも劣らないものと考えている。

② 院内教育の充実

質の高い救急医療を提供するために、全医療職員を対象としたBLS OSCE(基礎的心肺蘇生法の客観的臨床能力試験)を毎年実施し、さらに2ヶ月毎の院内ALSや3ヶ月毎の救急症例検討会を開催している。

③ 病院前救護 救急隊との連携

福岡地区メディカルコントロール事後検証会議や福岡市消防局ワークステーション、救急救命士気管挿管実習、福岡メディカルラリーなどに積極的に参加し、病院前救護にも力をいれている。ワークステーションでは主に救急隊員の観察能力向上を目指した院内実習を行っており、非常に高く評価されている。気管挿管実習では福岡地区で最も多くの気管挿管認定救命士を養成している。さらに第二回福岡メディカルラリーでは、参加14チーム中、準優勝という優秀な結果を残した。

<診療実績>

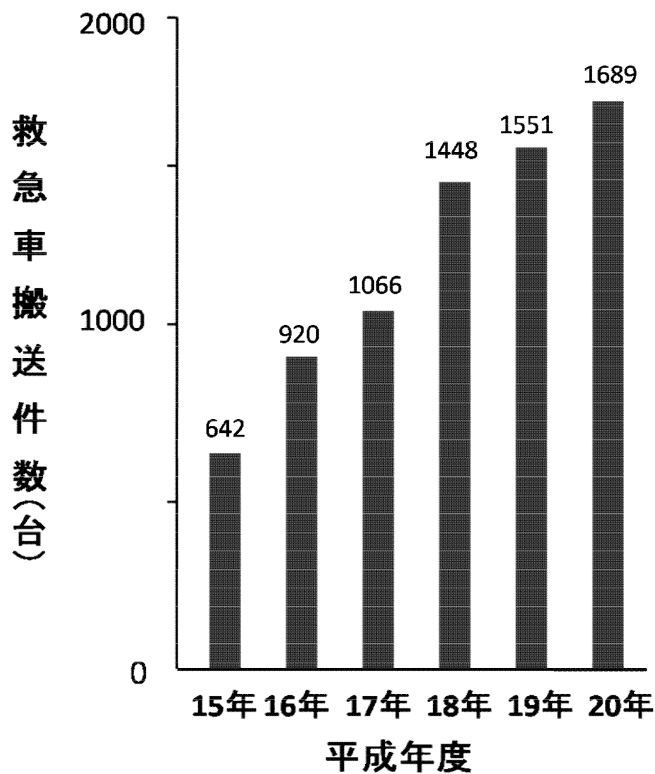


図1 救急搬送件数は確実に増加している。

平成20年度救急搬送隊内訳

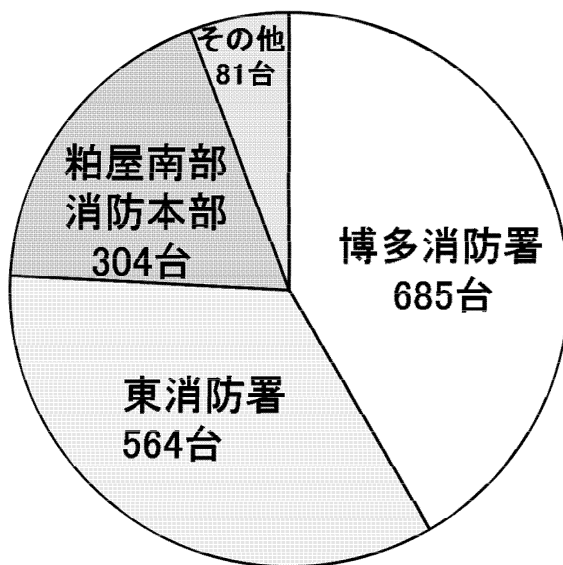


図2 平成20年度救急隊所属内訳では福岡市消防本部博多消防署、東消防署、粕屋南部消防本部が多く、地域に密着した活動を反映している。

平成20年度救急搬送疾患内訳

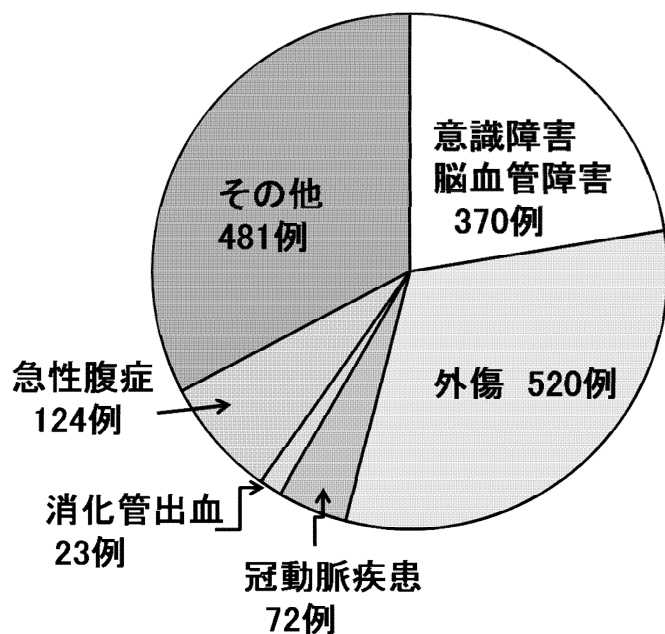


図3 平成20年度の救急搬送疾患内訳では、意識障害・脳血管障害と外傷が多数を占めている。

(9) 放射線科

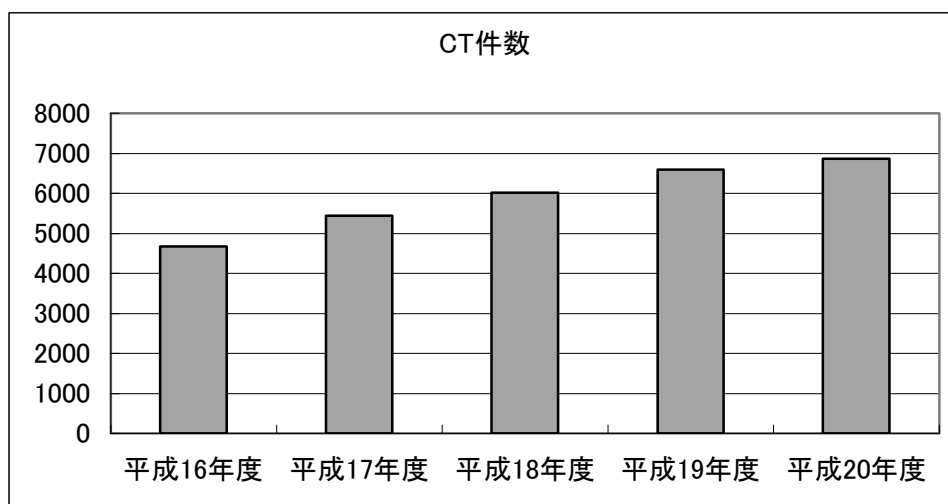
<概要>

市民病院の放射線科は**画像診断**と**IVR**（インターベンショナル・ラジオロジー）を担当

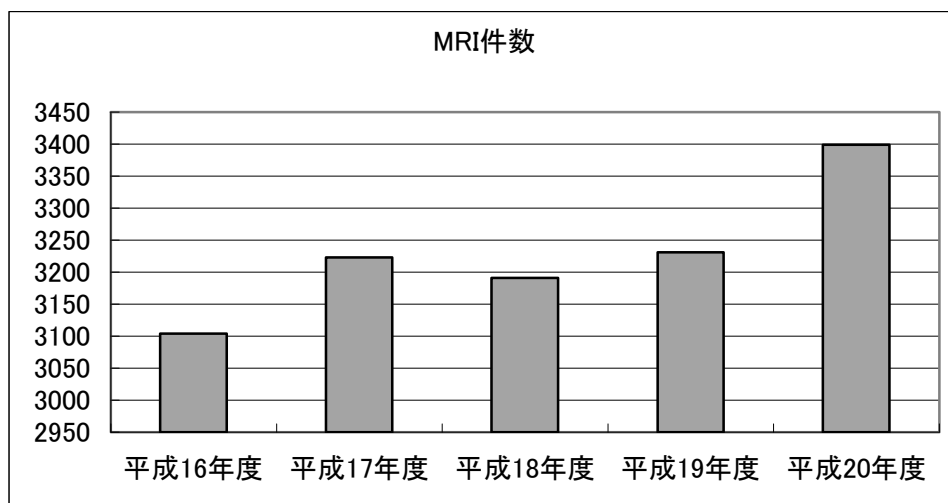
- (1) 画像診断：超音波検査，単純 X 線写真読影，CT，MRI，血管造影など。
- (2) IVR：肝癌の化学塞栓術，B-RTO（バルーン下逆行性経静脈的塞栓術），動注ポート留置など。

<特徴，診療実績>

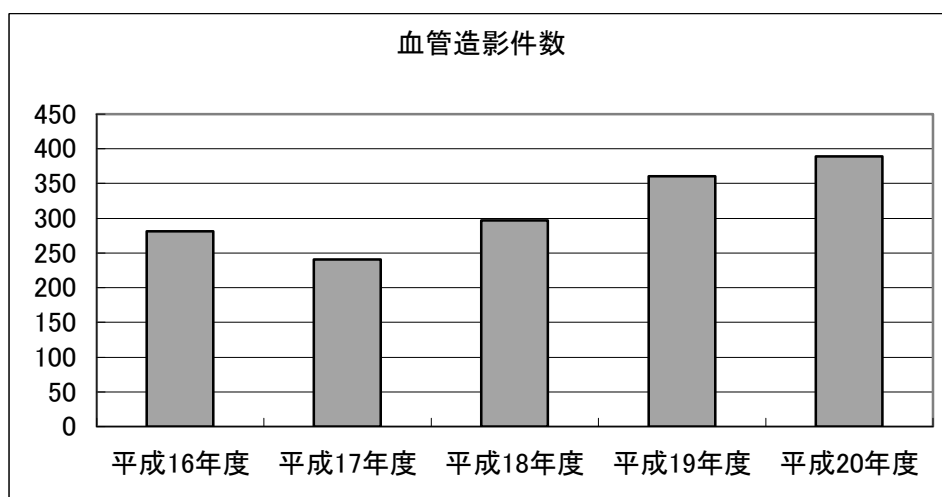
- (1) **単純 X 線写真**：手術前の胸部単純 X 線写真，マンモグラフィ，読影依頼のあった単純写真の読影。
- (2) **超音波検査**：腹部，頸部，乳腺の超音波検査を担当。平成 20 年度は 3825 件施行。
- (3) **CT**：頭部，胸部，腹部など全ての CT フィルムを読影。平成 20 年度は 6871 件で、下図のごとく増加の一途。



- (4) **MRI**：腹部，頭部，脊椎など全ての MRI を読影。時間外の急患に対しても MRI を施行。平成 20 年度の検査件数は 3399 件で、下図のごとく増加している。

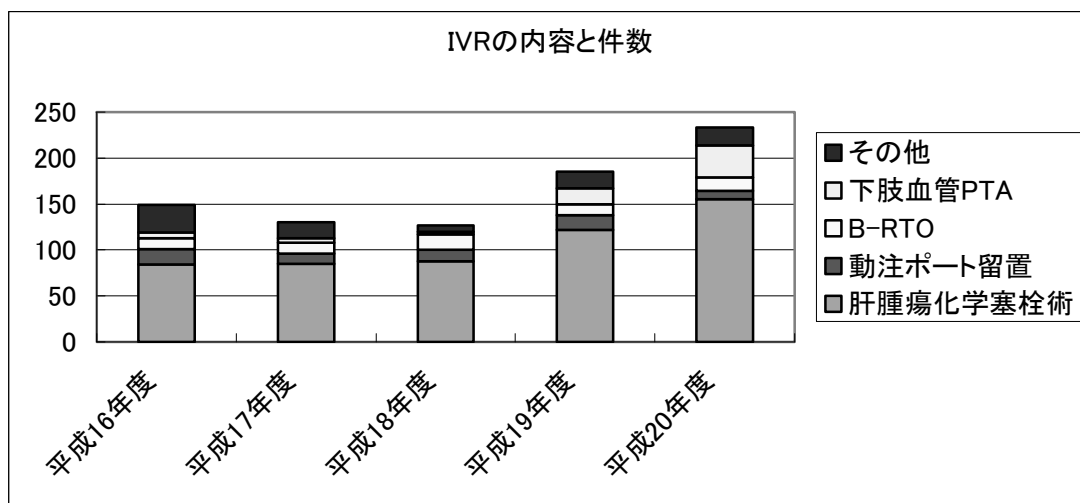


(5) **血管造影**：肝臓と頭部の血管造影がほとんどで、肝臓の大半は下記の **IVR** の症例。急患は、時間外にも施行。平成 20 年度の検査件数は 389 件で、増加傾向。当院の検査件数は市内の総合病院と比較するとベッド数のわりにひじょうに多い。

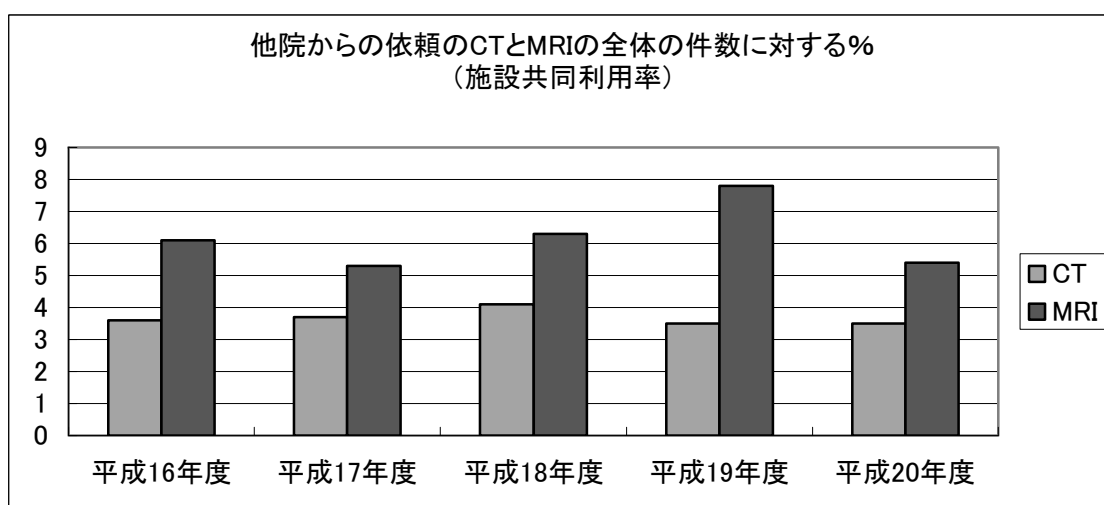
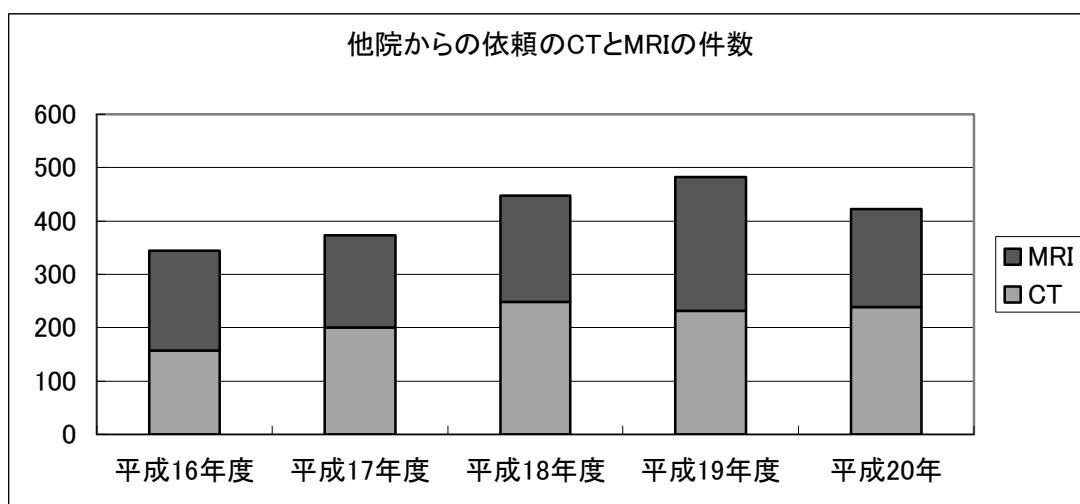


(6) **IVR**：肝細胞癌に対する化学塞栓術，リザーバー留置，胃静脈瘤に対する **B-RTO**（バルーン下逆行性経静脈的塞栓術）などの肝硬変/肝臓癌に対する **IVR** が大半で，肝硬変/肝臓癌関係の **IVR** は増加。市民病院の肝臓癌の良好な治療成績に貢献。**B-RTO** は市内の総合病院から当院へ紹介されてきている。また閉塞性動脈硬化症に対する **PTA**（経皮的血管形成術）とステント留置が増加してきている。

福岡市民病院は **IVR** 専門医修練施設で、また 3 名の看護師は日本 **IVR** 学会認定 **IVR** 看護師である。



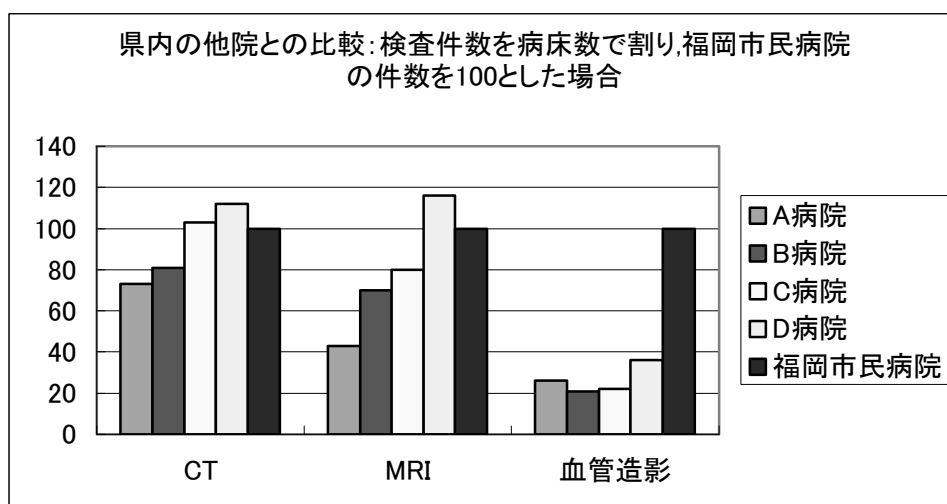
(7) 施設共同利用（地域医療連携）：他院からのCT, MRIの画像診断の依頼はグラフのごとく、件数、当院の検査件数に対する割合（施設共同利用率）ともに増加傾向で、地域の先生方の診療に貢献している。



(8) 県内の他施設との比較：平成 19 年度の市民病院の CT, MRI, 血管造影の件数を県内の総合病院と比較した（資料：九大放射線科同門会誌 平成 20 年度）。

	A 病院	B 病院	C 病院	D 病院	福岡市民病院
CT	26851	13950	13675	14254	6600
MRI	7668	5870	5199	7168	3231
血管造影	515	196	159	252	361
病床数	1116	520	403	384	200

病床数を一致させて福岡市民病院の検査件数を 100 とした場合、グラフのように CT, MRI は他院よりやや多く、血管造影はひじょうに多い。これは肝疾患の診断と治療、脳卒中の診療に尽力しているためである。



3. 災害被災地への派遣等

(1) 災害被災地への医療団（チーム）の派遣

ア. 阪神淡路大震災への派遣（平成7年1月17日午前5時46分発生）

派遣期間 平成7年1月21日～2月末まで

（福岡市医療団として第1次から8次まで派遣）

編成 衛生局（当時）、各区保健所、市民病院、こども病院・感染症センター職員で編成

医師、看護師、保健師、事務職員で構成

当院派遣職員 市民病院から医師12名、看護師15名を派遣

イ. 福岡県西方沖地震への派遣（平成17年3月20日午前10時56分発生）

玄界島住民が避難した九電体育館に避難所開設の間、職員を派遣

派遣期間 平成17年3月20日～4月24日まで（35日間）

派遣職員 医師76名、看護師86名、事務9名

延171名を派遣

ウ. 新潟県中越沖地震への派遣（平成19年7月16日午前10時30分発生）

派遣期間 平成19年8月1日～8月6日まで

派遣職員 医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名

計5名の医療チームを派遣

(2) 離島医療への派遣

本市が設置している離島の診療所のうち、玄界診療所に医師を派遣し島民の医療の確保に努めている。

- ・平成13年4月～平成15年5月までは常勤医師不在のため、当院の医師が交代で常駐した。
- ・その後は代務医師として、毎月1回及びゴールデンウィーク、年末年始等に派遣している。

4. 看護師等人材育成のための実習生受け入れ

当院では看護専門学校等からの要請を受け、看護師等医療分野の業務を目指す学生の病院実習生を受け入れ、人材育成に努めている。

また、救急隊員の救急業務の知識・技術の向上を図るため、消防局と連携し救急ワークステーション事業及び救急救命士の気管挿管実習を実施するなど救急医療の向上に努めている。

部 署	職 種	受入開始	H 1 8 (人)	H 1 9 (人)	H 2 0 (人)
看護部	看護師	平成元年以前	3 1 1	5 6 3	9 9
検査	臨床検査技師	平成元年以前	2	1	1
給食	管理栄養士	平成元年以前	1 7	2 0	2 6
薬局	薬剤師	平成元年以前	4	5	5
リハビリ	理学療法士	平成10年	2	2	1
麻酔科（再掲）	救急救命士（気管挿管）	平成16年	6	5	2
救急部（再掲）	救急隊員（救急ワーク ステーション）	平成17年	4 8	6 0	7 5